

各種団体意見交換会

とりまとめ結果

平成27年9月

1. 目的

第5次芦屋町総合振興計画後期基本計画の策定にあたり、町民との協働による計画づくりを行うひとつの方策として、各種団体との意見交換会を実施するもの。

2. テーマ設定

今後のまちづくりにおいて重要と思われる以下のテーマと関連する団体を対象に実施した。

(1) 産業振興関連

商工会をはじめ、各産業別に町内で活動している団体

(2) コミュニティ関連

地域コミュニティに関連した活動をしている団体

(3) 教育・福祉関連

教育や福祉の現場で活動している団体

3. 意見交換の対象団体及び開催日時

対象グループ名	団体名	開催日時
産業振興グループ	◆商工会 ◆観光協会 ◆遠賀漁業協同組合	9月8日(火) 10:00~11:30
コミュニティグループ	◆区長会 ◆婦人会 ◆老人クラブ連合会 ◆文化協会 ◆体育協会 ◆国際交流協会	9月8日(火) 13:15~14:45
教育・福祉グループ	◆四校PTA連絡協議会 ◆社会福祉協議会 ◆民生委員・児童委員協議会 ◆人権・同和教育研究協議会	9月8日(火) 17:30~19:00

※当日参加できなかった以下の団体については、後日個別に依頼し、12ページ以降に別途意見・提案書を添付しています。

【産業振興グループ】農事組合

【教育・福祉グループ】芦屋町青少年健全育成町民会議

4. 各種団体からの意見等の概要

(1) 産業振興グループ

①事業活動のメリット・デメリット

団体名	メリット	デメリット
<p style="text-align: center;">商工会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町外から創業者支援の発掘のための町創業等促進支援事業補助金 1件当たり200万円は大きい。 ⇒本年度、補助金を受けてコインランドリーが創業された。また、1階に店舗、2階にファストフードをいれたハウスメーカー（若松区）が創業を予定しており、本社も移転したい意向である。 ・協議会主催の最近の創業支援のセミナーには50社程度参加している。 ・芦屋の選定理由はロケーション。 ・空き店舗活用事業補助金。 (家賃補助) ・人口の定住化促進策（固定資産税の減免、出産祝金、家賃補助） 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き店舗対策として施策はあるものの、中心市街地が対象となっている。町の施策であるなら芦屋町の商業地域であれば対象でいいと思う。とくに料飲・サービス系のニーズは高い。 ・創業支援（遠賀創業支援協議会）は、郡内では初めての取り組みでいい施策だが、既存事業者の支援メニューはなく、六次産業化（農商工連携に対する支援）や金融支援（既存企業）の施策をお願いしたい。
<p style="text-align: center;">観光協会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観光・歴史資源はある。興味ある人は博多からでも来る。「地蔵めぐり」など魅力ある資源。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町外からの集客に結び付いていない。 ・町民が海浜公園など、町の資源を知らない。
<p style="text-align: center;">遠賀漁業協同組合</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・魚種としては秋から春にかけて鱈がある。（餌となるかたくちの稚魚が豊富） ・海の駅の振興が課題であったが、再興した。（養殖には地下水） ・海の駅の再興は大きく、洞山との連携等により、食事での集客がうまくいっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・H16年に3つの漁協が合併してから11年経つが、その間組合員数は半減している。 ・後継者はいないし、育っていない。 ・漁師になるためには船の購入等の初期投資で4,000万円ほどかかり、かなり負担が大きい。 ・漁業権は網を使う場合で、釣りは関係しない。 ・海づり公園は波等の関係で難しい。 水深は浅い。

②他の自治体と比較して良いところ・悪いところ

団体名	良いところ	悪いところ
商工会	<ul style="list-style-type: none"> ・町広報誌は、全世帯へ配布。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自治体、全体的に縦割りの業務となっている。事業実施にあたっては、所管課を横断できる体制づくりとして、プロジェクトチームの設置。 ・関係団体を構成した会議が多い。行政当局で判断をすべき内容まで、委員会等から答申が多く、内容によっては、行政判断でどうかと思う。
観光協会	<ul style="list-style-type: none"> ・海岸線を中心とする自然。 ・縄文時代からの古い歴史。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通が不便である。
遠賀漁業協同組合	—	—

③地域活動や社会活動等への取り組み

団体名	意見の内容
商工会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域イベントへ参画しているが、一過性（特に祭り）のものであり実行委員会の自己満足型となっているため、町民への参加意識を向上させることが先決だと思う。花火大会に町外から来て滞留できるシナリオが必要である。 ・商工会の会員事業所への健康診断事業を実施、国民健康保険加入者の受診率が低いので、助成金制度を設け受診者の増加を図っている。
観光協会	<ul style="list-style-type: none"> ・観光関連業者等の減少（廃業）などにより、組織（会員）増が図れない。 ・会員を巻き込んだ事業ができていない。
遠賀漁業協同組合	—

④将来のまちづくり

団体名	意見の内容
商工会	<ul style="list-style-type: none"> ・芦屋町は、海や史跡もあり観光資源と食においても郡内でも豊かであると自負しても過言ないと思う。ただ、特産品としてはまだこれからである。 ・この地域資源を点と線で結ぶような連携強化を図る。例えば、行政、観光協会、商工会の三者でそれぞれ役割分担をして、それぞれのプランを作成し、それをもとに行政でまとめる。経営コンサルの企画提案では、実効性がない。
観光協会	<ul style="list-style-type: none"> ・まちの大イベントには花火大会と航空祭がある。 ・5、6年前にボランティアガイドの育成をおこなったことがあるが、2年間やってみたが全く駄目であった。具体的に何をしてくれというシナリオを用意すべきであったが、ただボランティアガイドをやってくれという要望だけをだしたため、と考えられる。シナリオを用意すればよかった。ボランティアガイドは芦屋には必要であり、今後も協会として取り組んでいきたい。 ・能の「砧」は「砧まつり」として水巻町の青年部が熱心。海については、七浦の会（玄海地区の海岸）があるが、観光協会として推奨している、トラフグの試食会や特産品を一堂に集める等の試みをしている。それぞれの分野で専門家が関わっている。 ・芦屋の特産品もたくさんある。今後ともPRしていきたい。
遠賀漁業協同組合	<ul style="list-style-type: none"> ・海の駅を活用した活性化

※共通テーマ:観光によるまちづくり

意見の内容
<p>■町外から集客が一番</p> <ul style="list-style-type: none">・ボート場入口の掲示板の活用・観光案内所をつくる（会員が身近な案内所になる「まちの駅」は難しい）・駐車場の整備・レンタサイクルの導入・半日イベントの活用（航空祭のあと食事等を通して滞留時間を長くする）・食のイメージ強化のため、飲食マップをつくる。「鱈」「イカ」等を活用したメニューの開発等・今注目を集めている地場の石鹸メーカーとのタイアップによるデザインや自然素材と一体となった商品開発、石鹸づくり体験等への支援 <p>■後継者育成</p> <ul style="list-style-type: none">・後継者育成は産業振興のネック（商工会会員の後継者有は5%、漁協では以前はだめだった親子での研修等の支援もできるようになったが、依然として厳しい。）であり、一時期話題となった事業継承マッチングのような支援が必要。

(2) コミュニティグループ

①団体等の活動で困っていること及び町への要望等

団体名	困っていること	町へ要望等
区長会	<ul style="list-style-type: none"> ・後継者不足（60歳以上） ・組長等役員手当等への支援 ・公民館改修費を100万円から50万円以下に落としてほしい。また、樹木等の手入れでの支援 ・区長によって意識の差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金の増額 ・アパート住民の自治区加入対策の促進を図るなど。（家賃に組み入れているところあり）
婦人会	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代の加入者（会員）がない。老人会も兼務。 ・後継者問題が大きい。「女性を磨く」「ボケ防止」等を目的として、基本はボランティアであるが、今のとくに若い女性は仕事等を背景に関心を示してくれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「祭りあしや」などほとんどの町の行事への支援や独自の研修旅行や研修会が主な取組である。 ・高齢化（会員の）により行事への参加者が限られてきている。結果として後継者不足。
老人クラブ連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・会員の高齢化 ・クラブの活動としてはグランドゴルフ、ゲートボール、ペタンク等である。グランドゴルフをしたいため老人クラブに入る人も多い。 ・高齢者の買物支援等を検討している。 	—
文化協会	<ul style="list-style-type: none"> ・現在42団体、会員348人、展示、発表、学術研究等からなり、展示がもっとも多い。若い人は少ないがヒップホップのグループ等は若者が中心となっている。しかし、会員の高齢化及び会員数は減少している。（若い新規加入者が少ない） ・そのため、公民館講座を通じて、声かけしているが、文化協会会費等の関係から公民館講座で十分という声もあり、新しい団体の発足にはなっていない。 ・ただ、「芦屋小唄」による新しい団体はできている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭はH23～全町民対象に広げ、老人施設の作品展示や子どものスタンプラリー等も行っている。 ・これらを踏まえ町職員の支援（音響や会場準備）をいただきたい。
体育協会	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、グランドゴルフ、水泳、相撲、ソフトボール、マラソンを行っているが、今は相撲の人気がある。また、水泳は参加者が多いが、スポーツによっては少ない。 ・少子化により事業内容によっては参加者が少ない。チームが成り立たない場合は合併して大会に出ている。 ・多目的の活動・スポーツを行っていない子どもたちが多い。 ・複数のスポーツを行うために総合型地域スポーツクラブがあり現在2団体。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在スポーツ少年団430人、一般体育協会会員530人の規模であるが、スポーツ少年団の場合、一つのスポーツしかしていないという子どもが多い。 ・スポーツ活動で指導者という公的な免許を所有している人材の把握ができていない。 ・スポーツ少年団の場合は2名以上のスポーツ指導の認定員が必要である。昨年度定員40人に対して80人応募があり、認定員の資格をとっている。 ・指導員は費用がかかる。

国際交流協会	<ul style="list-style-type: none"> ・一番大きなイベントは、10月の国際交流パーティで200名ほど集まる。 ・その他、釜の里での文化交流、世界の料理教室等を開催している。 ・文化 交流 ・役員（14名）の研修等で日帰りバス研修を企画している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・とくに困ったことはない。 若い人の参加が少ないが、現在20代の役員が3人いる。
---------------	---	---

②町と一緒に取り組みたい活動や取り組むことができる活動

団体名	意見の内容
区長会	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの見守り等。 ・観光に関しては観光ボランティアの活動。
婦人会	<ul style="list-style-type: none"> ・他団体と組んでいくのはいいが、それぞれ各団体で忙しく難しい。 ・行事には区長会は参加している。区長会とのつながりは強い。
老人クラブ連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・山鹿の芋畑（町所有）での幼稚園児とのふれあいをやっており、今後とも続ける。
文化協会	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭及び文化講演、文化祭では芦屋釜にちなんで茶会を開いている。
体育協会	<ul style="list-style-type: none"> ・アスリートの育成とアスリートの定着のため、町出身の全国大会出場等トップクラスのアスリートを支援したり、招待するなどして町民のスポーツへの関心度を高めたい。
国際交流協会	<ul style="list-style-type: none"> ・祭りあしや： 継続参加予定 ・文化祭： 交流が続いている人などからの写真をパネル等で紹介するブースの開設を検討したい。

③芦屋町の良いところ・悪いところ

団体名	良いところ	悪いところ
区長会	<ul style="list-style-type: none"> ・風光明媚なところ ・下水道が整備されている ・町民体育祭 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動が遅い。（不法投棄が多いところへの防犯カメラの設置など。） ・広報を自治区加入に関係なく配布しているが、自治区未加入者にはコミュニティ税（宮崎）を課すなどを考える。 ・各種要望に対する回答について、「可能な限り早急」ではなく、具体的なスケジュールを示してほしい。
婦人会	—	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館等は早い時期に出来ているため、老朽化が進んでいる。（施設老朽化）
老人クラブ連合会	—	—
文化協会	<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪の少ない安全安心なまち ・災害の少ないまち ・自然が豊かなまち ・環境（住環境の充実）・・下水道普及 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通手段 ・自治区加入 ・人口の減少（町に活力が見られない） <p>→空き家対策及び空き店舗対策</p>

体育協会	<ul style="list-style-type: none"> ・町民体育祭など、町民が一同に集まる活動がある。今は区の連合チームをつくる等して全区から参加できるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治の役目と区代表者（区長）の役割不足が自治区によって差がある。具体的には、アパートの自治区の加入促進が進まないと、子ども会にも入らない。子ども会も消滅する。子どもがいないと活性化しない。
国際交流協会	<ul style="list-style-type: none"> ・人口の割に文化交流が盛んだと感じる。 	—

④将来のまちづくり

団体名	意見の内容	
区長会	<ul style="list-style-type: none"> ・自治区加入促進のためのコミュニティ税の設定 ・朝だけでも岡垣、遠賀等とのタウンバスの乗り入れ。山鹿等の不便なところは特に必要である。タウンバスにかわる代替タクシー等を検討する。 ・芦屋ボート駐車場の有効活用 ・他市町と隣接している地区での防犯街灯設置に関する役割分担を明確にする 	
婦人会	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家対策（例えばIT・企業家等への貸し出し）ただし、家は売れている。 ・バスが少ない等交通の便が悪い。（JRがないことも） 	
老人クラブ連合会	—	
文化協会	<ul style="list-style-type: none"> ・若者が定住するまち（子育て環境の充実）、Uターン者の支援（町有地の活用） ・若者が定住するまちについては、文化を通じた定住化のため、文化協会が受け皿になりたい。 	
体育協会	—	
国際交流協会	—	

※共通テーマ：コミュニティの活性化

意見の内容
<ul style="list-style-type: none"> ■ 高齢者等の買い物支援 <ul style="list-style-type: none"> ・中学生、高校生による支援 ■ 空き家の雑草処理 <ul style="list-style-type: none"> ・いつでも機器の貸し出しができるように ■ ニセ電話対策 <ul style="list-style-type: none"> ・折尾警察署との連携 ・拒否電話の設置促進

(3) 教育・福祉関連団体

①団体等の活動で困っていること及び町への要望等

団体名	困っていること	町へ要望等
<p>四校PTA連合会</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが参加しない総会、草刈り等のPTA活動に、保護者の参加が少ないこと。 内容の良い講演なのに、聞いて欲しい人程参加しない。呼びかけているが、余裕がない等で参加者は伸びない。 「PTAとは」といった講演もやっているが。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者対策
<p>社会福祉協議会</p>	<ul style="list-style-type: none"> 将来の地域福祉推進のために少しずつではあるが事業を拡大している。 大きな取組は「愛の福祉ネットワーク（地域支え合いマップ 災害時のマップ）」「高齢者地域交流サロン」「地域包括ケア」「ボランティア育成」である。 基本は人的資源の確保、ボランティアにおける住民の固定化。 今後、住民のニーズに応じて福祉事業を拡大したとき財源確保の問題が生じる恐れがある。介護事業の収支差額も下がっており、今後、資金確保が難しくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 資金確保が難しくなったときの財政支援
<p>民生委員・児童委員協議会</p>	<ul style="list-style-type: none"> 民児協の充足率は70%位であり、地域住民と町の橋渡し役を任務とする組織として、町民の期待に十分応えられていないと思う。（背景として給料がない等） 高齢化への支援（ひとり暮らし等）の充実 困ったことは区長や役場へ報告している。 子どもへの主任児童委員2名で支援している。 その他見守り隊等、学校の草刈り等の支援 区長と民生委員との関係は、民生委員は区長のサポートであり、連携をとっている。 個人情報については、ケアマネジャー等からの情報は理解している。区長会長との情報共有はしている。 民生委員のことをPRすることは重要であり、さまざまな場面で町民と接触する機会をもっておきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 県民児協は約60 市町村の場合は殆んど100%である。 事をなすには人・物・金なくしては出来ない場合あり。特に民児委員不在の住民は困っていると見聞きしている。 行政・各種団体等に永年増員を切望中。
<p>人権・同和教育研究協議会</p>	<ul style="list-style-type: none"> 行事に一般町民の参加が少ない。 人権まつり（年1回 300 人程度）、人権講演会等の参加者がいつも同じ顔ぶれ、それも高齢化している。 興味を引くようなアピールをすべきである。 人権まつりは毎週行事が続く。（PTAの研修会のように分科会方式等の検討も必要） 	<ul style="list-style-type: none"> 町も協力いただいているが、さらに参加呼びかけや広報を強化してもらいたい。

②町と一緒に取り組みたい活動や取り組むことができる活動

団体名	意見の内容
四校PTA 連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・18歳選挙権になるので、子どもたちが積極的に政治に関心が持てるよう夏休みなどに「子ども町議会」を開いて、町を良くする提案や町の未来像を考える機会ができたらと思う。 ・佐野市の交流の時だけでなく、海や畑など自然豊かな町を活かした体験（魚をとって、魚の体を知って、調理の仕方を学んで、みんなでいただくなど。みりん干し等を一から取組んで好評であった）
社会福祉 協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉活動の推進、高齢化や人口減少によっておこる福祉問題への解決のための対策チームの設置。（介護予防、ハンディキャップを持つ人への生活支援・成年後見等）
民生委員・児童委員協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・区長と民生委員の担当区域が異なるところがあり、異なる地域つまり不在地域の補充が出来れば区長等と連携して活動し、効果ある活動ができる。
人権・同和教育研究協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・従来どおりで良い

③芦屋町の良いところ・悪いところ

団体名	良いところ	悪いところ
四校PTA 連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・海があるという環境、花火大会。 ・町の規模がコンパクトな分、色々なことに目が届きやすい。 ・たくさんの地域の大人が子育てに積極的に関わってくれている実感がある。あいさつ運動は子どもたちまで浸透しているし、地域の見守りもありがたい。 ・小中一貫教育導入など学力向上に力を入れてくれている。 ・芦屋すてっぷくらぶ設置など特別支援児童の支援も積極的であること。 ・小中合同音楽祭の開催。 	—
社会福祉 協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体が小さい分、住民の顔がよく見えるので地域活動等が取り組みやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域にとって「愛の福祉ネットワーク」は不可欠である。ただ、自治意識が、確立していない。地域格差が大きい。
民生委員・児童委員協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・九州の表玄関として歴史が古く、落ち着いた町で人情味も厚い。 ・ボランティア活動が活発で、その連携と効果、実績のすばらしさ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民児協としては、郡内4町のうち民児委員不足は芦屋町だけという現状に対策（良案）はないものか。
人権・同和教育研究協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史・文化の厚みと深さ ・自然の良さ 	<ul style="list-style-type: none"> ・島国根性 ・地元への関心の薄さ

④将来のまちづくり

団体名	意見の内容
四校PTA 連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・交通の便の解消・・・通学補助なども含め、高校通学・東小学校のバス通学児童→スクールバスを運行するなど ・バスの本数が少ない。土曜日は黒崎行きがないので、土曜日学校に行く高校生等にとっては重要である。 ・町独自の奨学金制度を設けるなどしたら、人口流出を防げるのではと思う。 ・海浜公園の充実（アスレチック等）を行えば、芦屋町の活性化になると思う。
社会福祉 協議会	人材確保が必要だと思う。例えば高知市では、地場の産業育成のリーダー育成に経営塾の開催や、中学校に討論型授業を取り入れるなど、各層に対しての人材育成に取り組んでいる。
民生委員・児童委員協議会	・現状・分析、対策、実行 → 効果
人権・同和教育研究協議会	・自治活動が評価される仕組みづくり

※共通テーマ：人材の確保やコミュニティ活性化

意見の内容
<ul style="list-style-type: none"> ・自治区未加入者へのペナルティを負荷 ・自治区加入者へのポイント等何らかの特典を設定することによって、関心をもたせる。 ・地域活動等へ役割分担を設ける ・地区によってコミュニティへの意識に格差（意識の高い栗屋地区白浜地区等） ・子ども会、体育祭、独居老人への対応（盛り上がっている所は評価する） ・芦屋は文化度の高いまち、芦屋層群、芦屋釜等芦屋しかないものを持っており、そこに住んでいることを子どもも含め誇りにもてることが大切。オンリーワンのまちである。 ・町内のさまざまなホームページとリンクすることも考えられる。

(4) 意見交換会に参加できなかった団体（個別聞き取り）

(産業振興関連)

団体等名	芦屋町農事組合
芦屋町で事業活動をおこなう <u>メリット</u> は何ですか。	
芦屋町で事業活動をおこなう <u>デメリット</u> は何ですか。	<p>※芦屋町だけの問題でなく、全国的な問題として。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 諸外国（フランス等）のように、所得補償を手厚くしなければ農業を行っていくのに厳しい状況である。 ・ 親元就農以外の新規就農者が少ない。背景として初期投資や経営費に莫大な費用が必要であるため、参入しにくいのでは。（これに関しても、所得補償があれば参入しやすくなるのでは。） ・ 農地が拡散していることで、作業が効率的に行えない。農家の高齢化も進んでいるので、農地集積を進めていく必要がある。 <p>⇒農業の規模拡大が進んでいない状況では、所得補償の効果も薄れるので、所得補償と並行して、農地集積や規模拡大に関する施策も必要である。</p>
他の自治体と比較して、芦屋町の <u>良いところ</u> は何だと思えますか。	
他の自治体と比較して、芦屋町の <u>悪いところ</u> は何だと思えますか。	
貴団体等の地域活動や社会活動などへの取り組みについて、考え方、取組状況、問題点などがあればご記入ください。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農事組合の代表者は毎年順番が決まっているが、担い手が少なくなっているため同じ顔ぶれになってしまう。また、活動として水路清掃や草刈り、西川の管理など力仕事も多くあるため、女性農家では担いづらい状況である。
芦屋町の将来のまちづくりに関し、提案などがあればご記入ください。	

(教育・福祉関連・コミュニティ関連)

団体等名	青少年健全育成町民会議
団体等の活動で困っていることがありますか。	特にありません。
活動で困っていることに対し、町への要望などはありますか。	特にありません。
町と一緒に取り組みたい活動や取り組むことができる活動がありますか。	以前、校区育成会で行った通学合宿は、参加した子どもや家庭、ボランティアスタッフからも大好評でした。できれば校区の枠を超えて、町全体の取り組みとして復活させたい活動です。
他の自治体と比較して、芦屋町の <u>良いところ</u> は何だと思えますか。	<ul style="list-style-type: none">・元気な高齢者が多く、地域活動に積極的に参加してくれるところ。・小さな町なので、トップがリーダーシップを発揮すればフットワーク軽く新たな取り組みに対処できるところ。
他の自治体と比較して、芦屋町の <u>悪いところ</u> は何だと思えますか。	<ul style="list-style-type: none">・小・中学生の親世代の地域活動への参加が少なく、特定の人に負担が偏っている。・交通の便が極めて悪い（車を持たない若者や高校生や大学生を抱える家庭が町を離れる原因となっている）。・若者にとって魅力的な「仕事の場」が少ない。・高校生以上の「勉強の場」が少ない。
芦屋町の将来のまちづくりに関し、提案などがあればご記入ください。	将来のまちづくりの生命線は人づくりにある。 まちに活力をもたらすためには、「ヨソ者」の視点や、「若者」のITリテラシー、「バカ者」のバイタリティーが必要。 「仕事の場」「勉強の場」「くらしの場」の三つを地域でサポートする体制を整えて、人づくりに積極的に取り組んでほしい。